

ガロア・コホモロジーと

概均質ベクトル空間の普遍推移性

筑波大修士課程教育研究科

細川尋史 (Hiroshi HOSOKAWA)

### 1. $l = l_k(G, X)$ の定義

$k$  を標数 0 の体とする。  $\tilde{G}$  を連結かつ  $k$ -split な線型代数群とし、  $k$  上定義された表現  $\rho$  により  $X = \text{Aff}^n$  に作用するものとする。そして、 Zariski-dense  $\tilde{G}$ -orbit  $Y$  が存在するとき、  $(\tilde{G}, \rho, X)$  を概均質ベクトル空間とよぶ (以下、 P.V. と略記する)。  $(\tilde{G}, \rho, X)$  が P.V. であるとき、  $G = \rho(\tilde{G})$  とし、  $l = l_k(G, X)$  を次のように定義する。

$$l = l_k(G, X) = \text{the number of } G(k)\text{-orbits in } Y(k)$$

ここで、  $k$  上 non-split quaternion  $k$ -algebra が存在することを仮定する。これは、  $H^1(k, \text{Aut}(SL_2)) \neq 0$  であることと同値であり、さらに、このことより  $k$  上 2 次拡大が存在することが導かれる。そして、  $k \neq \mathbb{C}$  なるすべての局所体に対して、この仮定は満たされている。この仮定を満たす体  $k$  に対して、  $l = l_k(G, X) = 1$  のとき、  $Y$  は universally transitive open orbit

であるという。[1], [2]において, universally transitive open orbit を持つ irreducible regular P.V. の分類がなされている。また, [3]において, universally transitive open orbit を持つ simple 及び 2-simple P.V. の分類がなされている。

## 2. Galois - Cohomology

$G$  を group,  $A$  を  $G$ -set とする。(但し, 写像  $G \times A \rightarrow A$  が  $(g, a) \mapsto a^g$  定義される) 次を満たすとき,  $A$  は  $G$ -set であるという。(1)  $a^1 = a$  for  $\forall a \in A$  (2)  $(a^{g_1})^{g_2} = a^{g_1 g_2}$  for  $\forall a \in A, \forall g_1, g_2 \in G$ ) とき, 0次コホモロジ -  $H^0(G, A)$  を次で定義する。

$$H^0(G, A) = A^G = \{ a \in A ; a^g = a \text{ for } \forall g \in G \}$$

さらに,  $A$  が group であり,  $(ab)^g = a^g b^g$  for  $\forall a, b \in A, \forall g \in G$  を満たすとき,  $A$  を  $G$ -group という。このとき, 写像  $G \rightarrow A$  が次を満たすとき, cocycle という。

$$\begin{array}{c} G \rightarrow A \\ \cup \\ s \mapsto a_s \end{array}$$

$$a_{st} = (a_t)^s \cdot a_s \quad \text{for } \forall s, t \in G$$

cocycle  $a_s, b_s$  が次を満たすとき, 互いに cohomologous である

といい,  $a_s \sim_{\text{cohomologous}} b_s$  とかく。

$$\exists c \in A \text{ s.t. } b_s = c^s \cdot a_s \cdot c^{-1}$$

この関係;  $\sim_{\text{cohomologous}}$  は, 同値関係である。そして, 1次コホモロジ -  $H^1(G, A)$  を次で定義する。

$$H^1(G, A) = \{ \text{cocycles} \} / \sim_{\text{cohomologous}}$$

ここで、 $A$  が abelian であるとき、 $H^1(G, A)$  は abelian となるが、 $A$  が nonabelian であるとき、 $H^1(G, A)$  は group とならないが、 $1; \underset{\substack{\psi \\ \delta}}{G} \rightarrow \underset{\substack{\psi \\ \delta}}{A}$  なる cocycle を含む cohomology class ( =  $H^1$  もまた  $1$  とかく ) を含む pointed set である。

$A, B$  を  $G$ -set、写像  $f; A \rightarrow B$  が次を満たすとする。

$$f(a^s) = (f(a))^s \quad \text{for } \forall a \in A, \forall s \in G$$

このとき、 $f_0; H^0(G, A) \rightarrow H^0(G, B)$  を  $f_0 = f|_{H^0(G, A)}$  で定義する。さらに、 $A, B$  が  $G$ -group であり、 $f$  が group-homo であるとき、 $a_s; G \rightarrow A$  が cocycle ならば、 $f(a_s); G \rightarrow B$  である cocycle である。さらに、 $a_s \sim_{\text{cohomologous}} a'_s$  ならば、 $f(a_s) \sim_{\text{cohomologous}} f(a'_s)$  であるから、次の写像は、well-defined である。

$$f_1; \underset{\substack{\psi \\ a_s}}{H^1(G, A)} \rightarrow \underset{\substack{\psi \\ f(a_s)}}{H^1(G, B)}$$

但し、 $\bar{a}_s$  は、cocycle  $a_s$  の属する cohomology class である。

Proposition. 1.

$A, B$  を  $G$ -group、 $C$  を  $G$ -set とする。  $1 \rightarrow A \xrightarrow{\tilde{z}} B \xrightarrow{P} C \rightarrow 1$  が pointed set として exact (但し、 $\tilde{z}$  は group-homo であり、 $\tilde{z}$  及び  $P$  は  $G$  の作用と可換とする。) ならば、次もまた pointed set として exact である。

$$1 \rightarrow H^0(G, A) \xrightarrow{i_0} H^0(G, B) \xrightarrow{P_0} H^0(G, C) \xrightarrow{\delta} H^1(G, A) \xrightarrow{\tilde{z}_1} H^1(G, B)$$

Proof.

(1)  $H^0(G, A)$  における exactness.

$z: A \rightarrow B$  が injective であることより明らか。

(2)  $H^0(G, B)$  における exactness.

$b \in \text{Im } z_0 \Rightarrow \exists a \in A \text{ s.t. } b = z_0(a) = z(a) \Rightarrow P_0(b) = P(z(a)) = 1 \Rightarrow b \in \ker P_0$ . 逆に,  $b \in \ker P_0 \Rightarrow b \in \ker P = \text{Im } z \Rightarrow \exists a \in A \text{ s.t. } b = z(a)$ . このとき,  $\forall s \in G$  に対して,  $b^s = z(a)^s = z(a^s)$  であり,  $b^s = b$  であるから,  $z(a^s) = z(a)$ .  $z$  が injective であるから,  $a^s = a$  より,  $a \in A^G = H^0(G, A)$  となつて,  $b = z(a) = z_0(a) \in \text{Im } z_0$ .

(3)  $\delta: H^0(G, C) \rightarrow H^1(G, A)$  の定義.

$\forall c \in H^0(G, C)$  に対して,  $P$  が surjective であるから,  $\exists b \in G$  s.t.  $P(b^{-1}) = c$  となる.  $\forall s \in G$  に対して,  $P(b^{-1}) = c = c^s = P(b^{-1})^s = P(b^s)^{-1} \Rightarrow P(b^s b^{-1}) = 1 \Rightarrow b^s b^{-1} \in \ker P = \text{Im } z \Rightarrow a_s = z^{-1}(b^s b^{-1}) \in A$  とおくと,  $G \rightarrow A$  なる写像が得られる. 以下, 簡単のため,  $z(A)$  と  $A$  とを同一視する.  $\forall s, t \in G$  に対して,  $(a_t)^s \cdot a_s = (b^t b^{-1})^s \cdot b^s b^{-1} = b^{st} \cdot b^{-1} = a_{st}$  であるから,  $a_s: G \rightarrow A$  は cocycle である. また,  $P(b^{-1}) = P(b'^{-1}) = c$ ,  $a_s = b^s b^{-1}$ ,  $a'_s = b'^s b'^{-1}$  とおくと,  $1 = P(b') P(b^{-1}) = P(b' b^{-1}) \Rightarrow b' b^{-1} \in \ker P = \text{Im } z = A \Rightarrow \exists a \in A \text{ s.t. } b' = ab \Rightarrow a'_s = (ab)^s \cdot (ab)^{-1} = a^s b^s b^{-1} a^{-1} = a^s a_s a^{-1} \Rightarrow a_s \sim a'_s$  したがって, 上のようにならせた cocycle  $a_s$  の含まれる cohomology class は,

$P(b^{-1}) = C$  なる  $b \in B$  のとり方によらず、 $C$  のみで定まるから次の写像は、well-definedである。

$$\begin{array}{ccc} \delta : H^0(G, C) & \longrightarrow & H^1(G, A) \\ \downarrow \psi & & \downarrow \psi \\ C & \longmapsto & \frac{\psi}{a_s} \end{array}$$

(4)  $H^0(G, C)$  における exactness.

$C \in H^0(G, C)$  に対し、 $C \in \text{Im } P_0 \Leftrightarrow \exists b \in B \text{ s.t. } P(b^{-1}) = C, b^s = b$   
for  $\forall s \in G \Leftrightarrow \delta(C) = 1 \Leftrightarrow C \in \ker \delta$ .

(5)  $H^1(G, A)$  における exactness.

$\bar{a}_s \in H^1(G, A)$  に対し、 $\bar{a}_s \in \ker z_1 \Leftrightarrow a_s : G \rightarrow B$  が 1 と cohomologous  $\Leftrightarrow a_s = b^s \cdot b^{-1}$  for  $\exists b \in B \Leftrightarrow C = P(b^{-1})$  に対し、 $\bar{a}_s = \delta(C)$  (注;  $1 = P(a_s) = P(b^s b^{-1}) = (C^s)^{-1} \cdot C$  for  $\forall s \in G$  により  $C^s = C$  for  $\forall s \in G$  であるから、 $C \in H^0(G, C)$  である。)  $\Leftrightarrow \bar{a}_s \in \text{Im } \delta$   
(証明終)

Proposition 2.

$G$ ; group,  $A_1, A_2$ ;  $G$ -group であるとき.

$$H^1(G, A_1 \times A_2) \cong H^1(G, A_1) \times H^1(G, A_2) \quad (\text{bijection})$$

Proof.

$$\begin{array}{ccc} G \longrightarrow A_1 \times A_2 & \text{を cocycle とすると、} & G \longrightarrow A_i \quad (i=1,2) \\ \downarrow \psi & & \downarrow \psi \\ S \longmapsto a_s = (a_s^1, a_s^2) & & S \longmapsto a_s^i \end{array}$$

は cocycle である。実際、 $a_s$  が cocycle であることより  $a_{st} = (a_t)^s a_s$   
 $a_s$  であるから、 $a_{st} = (a_{st}^1, a_{st}^2), (a_t)^s \cdot a_s = (a_t^1, a_t^2)^s \cdot (a_s^1,$

$$a_s^2) = ((a_t^1)^S (a_t^2)^S) (a_s^1 a_s^2) = ((a_t^1)^S a_s^1, (a_t^2)^S a_s^2) \text{ かつ}$$

1)  $a_s^{\bar{z}} = (a_t^{\bar{z}})^S a_s^z$  ( $z=1,2$ ) が成り立つ。さらに、 $a_s$

$\widetilde{\text{cohomologous}} a_s^i$  かつ  $a_s^{\bar{z}} \widetilde{\text{cohomologous}} a_s^z$  ( $z=1,2$ ) である。実際、 $a_s$

$$\widetilde{\text{cohomologous}} a_s^i \Rightarrow \exists c \in A_1 \times A_2 \text{ s.t. } a_s^i = c^S a_s c^{-1} \Rightarrow c = (c^1, c^2)$$

$$\text{とすると、} (a_s^1, a_s^2) = (c^1, c^2)^S (a_s^1 a_s^2) (c^1 c^2)^{-1} = ((c^1)^S a_s^1$$

$$c^{1-1}, (c^2)^S a_s^2 c^{2-1}) \Rightarrow a_s^{\bar{z}} = (c^z)^S a_s^z c^{z-1} \text{ ( $z=1,2$ )。}$$

したがって、2次の写像  $\varphi$  は、well-defined である。

$$\varphi: H^1(G, A_1 \times A_2) \rightarrow H^1(G, A_1) \times H^1(G, A_2)$$

$$\begin{array}{c} \downarrow \\ \bar{a}_s = (a_s^1 a_s^2) \end{array} \mapsto \begin{array}{c} \downarrow \\ \bar{a}_s^1 \times \bar{a}_s^2 \end{array}$$

$\varphi$ : injective

2つの cocycle  $a_s^z, b_s^z; G \rightarrow A_z$  が  $\widetilde{\text{cohomologous}}$  であるとする。

すなわち、 $\exists c_z \in A_z$  s.t.  $a_s^z = c_z^S b_s^z c_z^{-1}$ 。このとき、cocycle

$$a_s = (a_s^1 a_s^2), b_s = (b_s^1 b_s^2) \text{ は、} c = (c_1, c_2) \in A_1 \times A_2 \text{ に対して、}$$

$$a_s = c^S b_s c^{-1} \text{ を満たしているから } \widetilde{\text{cohomologous}}$$
 である。これは

すなわち、 $\varphi$  が injective であることを示している。

$\varphi$ : surjective

$$\begin{array}{ccc} \text{任意の cocycle } G \rightarrow A \text{ ( $z=1,2$ ) に対して、} & G \rightarrow A_1 \times A_2 \\ \downarrow & \downarrow \\ s \mapsto a_s^z & s \mapsto a_s = (a_s^1 a_s^2) \end{array}$$

もまた cocycle である。実際、 $a_{st} = (a_{st}^1, a_{st}^2) = ((a_t^1)^S a_s^1,$

$$(a_t^2)^S a_s^2) = (a_t^1, a_t^2)^S (a_s^1 a_s^2) = (a_t)^S a_s \text{。 したがって、} \varphi \text{ が}$$

surjective であることを示している。 (証明終)

1 で述べたように、 $k$  を標数 0 の体、 $\bar{k}$  を  $k$  の代数閉包とする。また  $G$  が  $k$ -group、 $Y$  が  $k$ -variety であるとする。 $G$  が  $Y$  に  $k$ -morphism  $P$  で作用し、 $Y$  は  $G$ -homogeneous (すなわち、 $Y$  は simple  $G$ -orbit) であるとき、 $\text{Gal}(\bar{k}/k)$  は、 $Y(\bar{k})$  に作用するから、0 次コホモロジ -  $H^0(\text{Gal}(\bar{k}/k), Y(\bar{k}))$  が定義される。同様に、 $\text{Gal}(\bar{k}/k)$  は、 $G(\bar{k})$  に作用するから、0 次コホモロジ -  $H^0(\text{Gal}(\bar{k}/k), G(\bar{k}))$  1 次コホモロジ -  $H^1(\text{Gal}(\bar{k}/k), G(\bar{k}))$  が定義される。これらをそれぞれ、 $H^0(k, Y)$ 、 $H^0(k, G)$ 、 $H^1(k, G)$  とかく。また [2] の記号にしたがい、 $\xi \in Y(k)$  に対して、 $\tilde{G}_\xi = \{g \in \tilde{G}; P(g)\xi = \xi\}$ 、 $G_\xi = P(\tilde{G}_\xi)$  とすると、同様にして、 $H^0(k, G_\xi)$ 、 $H^1(k, G_\xi)$  が定義される。

Lemma. 3. (Dedekind)

$k/k$  を有限次 Galois 拡大、 $G = \text{Gal}(k/k)$  をその Galois 群とする。 $\{a_s\}_{s \in G} \neq 0$  ( $a_s \in k$ ) ならば、 $\exists c \in k$  s.t.  $\sum_{s \in G} c^s \cdot a_s \neq 0$  となる。

Proof.

$c^s: a_{s_1} + \dots + c^{s_2} \cdot a_{s_2} = 0$  for  $\forall c \in k$  ( $\forall a_{s_i} \neq 0$ ) なるものがあるとして、その中で  $l$  が最小のものを考える。 $a_{s_1} \neq 0$ 、 $c \neq 0$  ならば、 $c^{s_1} \cdot a_{s_1} \neq 0$  だから  $l \neq 1$  すなわち  $l \geq 2$  である。ここで、 $s_1 \neq s_2$  としてよい。このとき、 $\exists x \in k$  s.t.  $x^{s_1} \neq x^{s_2}$  である。実際、 $x^{s_1} = x^{s_2}$  for  $\forall x \in k$  とすると、 $x^{s_2^{-1}s_1} = x$

for  $\forall x \in k$  となるから、 $s_2^{-1}s_1 = 1$  すなわち  $s_1 = s_2$  となり矛盾である。  $\therefore$   $\forall y \in k$  に対して、 $y^{s_1}(x^{s_1} \cdot a_{s_1}) + y^{s_2}(x^{s_2} \cdot a_{s_2}) + \dots + y^{s_r}(x^{s_r} \cdot a_{s_r}) = 0$ 、 $y^{s_1}(x^{s_1} \cdot a_{s_1}) + y^{s_2}(x^{s_1} \cdot a_{s_2}) + \dots + y^{s_r}(x^{s_1} \cdot a_{s_r}) = 0$  であるから、 $y^{s_2}(x^{s_1} - x^{s_2})a_{s_2} + \dots + y^{s_r}(x^{s_1} - x^{s_2})a_{s_r} = 0$  for  $\forall y \in k$ 。  $x^{s_1} \neq x^{s_2}$  であるからこれは  $\mathbb{C}$  の最小性に反する。(証明終)

Lemma. 4.

$K/k$  を有限次 Galois 拡大、 $G = \text{Gal}(K/k)$  をその Galois 群とする。

$a_s \in GL_n(k)$  ( $s \in G$ ) に対して、 $\exists c \in GL_n(k)$  s.t.  $b = \sum_{s \in G} c^s \cdot a_s \in GL_n(k)$  となる。

Proof.

まず、 $x \in k^n$  に対して、 $b(x) = \sum_{s \in G} x^s \cdot a_s$  とおくと、 $k^n = \langle b(x); x \in k^n \rangle_k$  すなわち、ベクトル空間として  $k^n$  は  $\{b(x); x \in k^n\}$  により生成されることを示す。  $u: k^n \rightarrow k$  を linear form  $\sum u(b(x)) = 0$  for  $\forall x \in k^n$  を満たすものとする。このとき、 $\forall h \in k$  に対して、 $0 = u(b(hx)) = u(\sum_{s \in G} (hx)^s \cdot a_s) = \sum_{s \in G} h^s u(x^s \cdot a_s)$ 。したがって、Lemma. 3. 1. により  $u(x^s a_s) = 0$  for  $\forall s \in G$ 。よって、 $\forall y \in k^n$  に対して、 $y = x^s \cdot a_s$  なる  $x \in k$  が存在するから、 $u(y) = u(x^s \cdot a_s) = 0$  すなわち  $u = 0$ 。  $\therefore$   $\langle b(x); x \in k^n \rangle_k \subseteq k^n$  とすると、 $\langle b(x); x \in k^n \rangle_k$  の basis を  $\{v_1, \dots, v_r\}$  とするならば、 $r \leq n$  であり、これを延長して、 $\langle v_1, \dots, v_r, v_{r+1}, \dots, v_n \rangle_k = k^n$  とできるから、 $u: k^n \rightarrow k$  は  $u(v_k) = 0$ 、 $u(v'_j) = 1$  ( $k \leq r, j \geq k+1$ )



1) とすれば、 $u$  は上の条件を満足する linear form となるが、 $u \neq 0$  だから矛盾である。したがって、 $Z = \langle b(x); x \in k^n \rangle_k = k^n$  である。  
よって、 $\exists x_1, \dots, x_m \in k^n$  s.t.  $\{y_i = b(x_i)\}$  は  $k$  上線型独立である。  
特に、 $x_1, \dots, x_m$  は  $k$  上線型独立だから  $C = (x_1, \dots, x_m) \in GL_n(k)$  である。さらに、 $b = \sum_{s \in G} C^s \cdot a_s = (\sum_{s \in G} x_1^s \cdot a_s, \dots, \sum_{s \in G} x_m^s \cdot a_s) = (b(x_1), \dots, b(x_m)) = (y_1, \dots, y_m) \in GL_n(k)$  である。 (証明終)

Proposition 5.

$k/k$  を有限次 Galois 拡大、 $G = \text{Gal}(k/k)$  をその Galois 群とすると、 $H^1(G, GL_n(k)) = \{1\}$  である。特に、 $H^1(k, GL_n) = \{1\}$  である。

Proof.

任意の cocycle  $a_s; G \rightarrow GL_n(k)$  に対し、Lemma 4. により  $\exists C \in GL_n(k)$  s.t.  $b = \sum_{s \in G} C^s \cdot a_s \in GL_n(k)$  となる。また  $\forall s \in G$  に対し、 $b^s = \sum_{t \in G} (C^t)^s \cdot (a_t)^s = (\sum_{t \in G} C^{st} \cdot a_{st}) a_s^{-1} = b \cdot a_s^{-1}$  すなわち、 $a_s = b^{-s} \cdot b^{-1}$  ( $b^{-1} = b^{-1}$ )。したがって、 $a_s$  は  $\text{cohomologous } 1$  である。ゆえに、 $H^1(G, GL_n(k)) = \{1\}$  が示すことができる。次に、 $\bar{k}/k$  の中間体  $k$  で、 $k/k$  が有限次 Galois 拡大となるものを考える。上のことより、 $H^1(\text{Gal}(k/k), GL_n(k)) = \{1\}$  であり、さらに、 $\text{Gal}(\bar{k}/k) = \varprojlim_k \text{Gal}(k/k)$  (projective limit)、 $GL_n(\bar{k}) = \varinjlim_k GL_n(k)$  (injective limit) であるから、 $H^1(k, GL_n) = H^1(\varprojlim_k \text{Gal}(k/k), \varinjlim_k GL_n(k)) = \varinjlim_k H^1(\text{Gal}(k/k), GL_n(k)) = \varinjlim_k \{1\} = \{1\}$ 。 (証明終)

Corollary 6.

$K/k$  を有限次 Galois 拡大,  $G = \text{Gal}(K/k)$  をその Galois 群とすると,  $H^1(G, \text{SL}_n(K)) = \{1\}$  である。特に,  $H^1(k, \text{SL}_n) = \{1\}$  である。

Proof.

1  $\text{SL}_n(K) \rightarrow \text{GL}_n(K) \rightarrow K^\times \rightarrow 1$  は exact であるから Proposition. 1 により次もまた exact である。  $H^0(G, \text{GL}_n(K)) \rightarrow H^0(G, K^\times) \xrightarrow{\delta} H^1(G, \text{SL}_n(K)) \rightarrow H^1(G, \text{GL}_n(K)) = 0$ 。 Proposition. 5. により  $H^1(G, \text{GL}_n(K)) = \{1\}$  であるから  $\delta$  は surjective。  $H^0(G, \text{GL}_n(K)) = \text{GL}_n(K)$ ,  $H^0(G, K^\times) = K^\times$  であるから,  $\delta(K^\times) = H^1(G, \text{SL}_n(K))$ 。一方  $\det: \text{GL}_n(K) \rightarrow K^\times$  は surjective であるから  $\delta(K^\times) = 1$ 。したがって,  $H^1(G, \text{SL}_n(K)) = \{1\}$ 。また,  $H^1(k, \text{SL}_n) = \{1\}$  については, Proposition. 5. の Proof の後半と全く同様にして示される。 (証明終)

$1 \rightarrow G_\xi(\bar{k}) \rightarrow G(\bar{k}) \rightarrow Y(\bar{k}) \rightarrow 1$  は, pointed set として exact である。

したがって,  $H^0(k, Y) = Y(k)$ ,  $H^0(k, G) = G(k)$ ,  $H^0(k, G_\xi) = G_\xi(k)$  に注意して, Proposition. 1. により次の (A) は exact である。

$$(A) \quad 1 \rightarrow G_\xi(k) \rightarrow G(k) \rightarrow Y(k) \rightarrow H^1(k, G_\xi) \rightarrow H^1(k, G)$$

Proposition. 7.

$G(k) \backslash Y(k) \simeq \alpha^{-1}(1)$  (bijection)。但し,  $\alpha$  は (A) における写像であり,  $G(k) \backslash Y(k)$  は,  $Y(k)$  内の  $G(k)$ -orbits の集合である。

Proof.

exact sequence (A) により,  $\delta(Y(k)) = \alpha^{-1}(1)$ . したがって,  
 $\delta(Y(k)) = G(k) \backslash Y(k)$  を示せばよい. すなわち,  $y_1, y_2 \in$   
 $Y(k)$  に対し,  $\delta(y_1) = \delta(y_2) \iff y_1 \sim_{G(k)} y_2$  を示せばよい. 但  
 し,  $y_1 \sim_{G(k)} y_2$  は,  $y_1$  と  $y_2$  とが同じ  $G(k)$ -orbit の元であること  
 を示している.  $\delta(y_1) = \delta(y_2)$  と, 次とは同値である.  $g_1^{-1} \xi$   
 $= y_1$ ,  $g_2^{-1} \xi = y_2$  なる  $g_1, g_2 \in G(\bar{k})$  に対し,  $g_1^{-1} g_1^{-1} \xi$  cohomologous  
 $g_2^{-1} g_2^{-1} \xi$  for  $\forall \sigma \in \text{Gal}(\bar{k}/k)$ . すなわち,  $\exists g \in G_{\xi}(\bar{k})$  s.t.  $g_1^{-1} g_1^{-1}$   
 $= g_2^{-1} g_2^{-1} g g_2^{-1} g^{-1}$  for  $\forall \sigma \in \text{Gal}(\bar{k}/k)$ . このとき,  $g_1^{-1} g g_2 = (g_1^{-1}$   
 $g g_2)^{\sigma}$  for  $\forall \sigma \in \text{Gal}(\bar{k}/k)$ . したがって,  $h = g_1^{-1} g g_2$  とすると,  
 $h \in G(k)$ . この  $h$  に対し,  $h y_2 = g_1^{-1} g g_2 y_2 = g_1^{-1} g \xi = g_1^{-1} \xi$   
 $= y_1$ . したがって,  $y_1 \sim_{G(k)} y_2$  であることを示している.

(証明終)

Proposition. 8.

次に仮定する. (1)  $H^1(k, \tilde{G}) = \{1\}$ , (2)  $H^1(k, \tilde{G}_{\xi}) \rightarrow$   
 $H^1(k, G_{\xi})$  は surjective. このとき,  $G(k) \backslash Y(k) \simeq H^1(k, G_{\xi})$ .

Proof.

$$\begin{array}{ccccccc} 1 & \rightarrow & \tilde{G}_{\xi}(\bar{k}) & \rightarrow & \tilde{G}(\bar{k}) & \rightarrow & Y(\bar{k}) \rightarrow 1 \\ & & \downarrow & & \downarrow p & & \parallel \\ 1 & \rightarrow & G_{\xi}(\bar{k}) & \rightarrow & G(\bar{k}) & \rightarrow & Y(\bar{k}) \rightarrow 1 \end{array}$$

(=より induce される次の diagram

(D) は, 可換で横 2 行は exact である。

$$(D) \quad \begin{array}{ccccccc} \tilde{G}(k) & \longrightarrow & Y(k) & \longrightarrow & H'(k, \tilde{G}_\xi) & \xrightarrow{\alpha_1} & H'(k, \tilde{G}) \\ \downarrow & & \parallel & & \downarrow \beta & & \downarrow \beta_1 \\ G(k) & \longrightarrow & Y(k) & \longrightarrow & H'(k, G_\xi) & \xrightarrow{\alpha} & H'(k, G) \end{array}$$

仮定 (1) により,  $\beta_1 \circ \alpha_1 = \alpha \circ \beta$  は trivial. すなわち,  $(\alpha \circ \beta)(H'(k, \tilde{G}_\xi)) = \{1\}$ . 仮定 (2) により,  $\beta$  は surjection であるから,  $\beta(H'(k, \tilde{G}_\xi)) = H'(k, G_\xi)$ . したがって,  $\alpha(H'(k, G_\xi)) = \{1\}$ . すなわち,  $\alpha^{-1}(1) = H'(k, G_\xi)$ . したがって, Proposition. 7. により,  $G(k) \setminus Y(k) \simeq H'(k, G_\xi)$  を得る. (証明終)

Proposition. 9.

次を仮定する. (1)  $H'(k, \tilde{G}) = \{1\}$ , (2)  $\ker P = \{1\}$ . このとき,  $G(k) \setminus Y(k) \simeq H'(k, G_\xi)$ .

Proof.

$\ker P = \{1\}$  であることより,  $\tilde{G}_\xi \simeq G_\xi$  である. したがって,  $H'(k, \tilde{G}_\xi) \simeq H'(k, G_\xi)$ . よって, Proposition. 8. と全く同様にして,  $G(k) \setminus Y(k) \simeq H'(k, G_\xi)$  が示される. (証明終)

Proposition. 10.

$\tilde{G}_\xi = \{1\}$  ならば,  $l=1$ . すなわち,  $Y$  は single  $G(k)$ -orbit である.

Proof.

$\tilde{G}_\xi = \{1\}$  により,  $G_\xi = P(\tilde{G}_\xi) = \{1\}$ . したがって, Proposition. 7. により,  $G(k) \setminus Y(k) \simeq \alpha^{-1}(1) = \{1\}$ , for  $\alpha$ ;  $H'(k, G_\xi) = \{1\} \rightarrow H'(k, G)$ . (証明終)

3. Universally transitive open orbit を持つ 2-simple P.V. の例

例 1.

$$(GL_1^2 \times SL_{2m+1}, \Lambda_2 \oplus \Lambda_2)$$

一般に、 $(G, p, X)$  に対して  $l=1$  ならば、 $\tilde{p}(\tilde{G}) = p(G)$  なる  $(\tilde{G}, \tilde{p}, X)$  に対しても  $l=1$  がいえるから、 $(SL_{2m+1}, \Lambda_2 \oplus \Lambda_2)$  に対して  $l=1$  であることを示せば十分である。まず、

generic point  $\xi = (X, Y) = \left( \begin{array}{c|c} & I_m \\ \hline & \\ \hline -I_m & \end{array} \right), \left( \begin{array}{c|c} & -I_m \\ \hline & \\ \hline I_m & \end{array} \right)$  にお

ける  $(SL_{2m+1}, \Lambda_2 \oplus \Lambda_2)$  の isotropy subgroup  $G_\xi$  は次で与えられる。

$$G_\xi = \left\{ \begin{array}{c|c} I_{m+1} & 0 \\ \hline a_1, a_2, \dots, a_{m+1} & \\ \hline a_2, a_3, \dots, a_{m+2} & \\ \hline \dots & \\ \hline a_m, a_{m+1}, \dots, a_{2m} & I_m \end{array} \right\} \simeq G_a^{2m}$$

実際、 $A \in G_\xi$  ならば  $A = \begin{pmatrix} * & 0 \\ * & * \end{pmatrix}$  の形である。そして、

$$A = \begin{pmatrix} A_1 & x & 0 \\ y & a & 0 \\ B_1 & z & C \end{pmatrix} \quad \text{とすると、} \quad A \in G_\xi \quad \text{であることより、} \quad AX^t A$$

$$= X \Leftrightarrow y^t C = 0, \quad A_1^t C = I_m, \quad B_1^t C - C^t B_1 = 0 \Leftrightarrow y = 0, \quad A_1 = {}^t C^{-1}$$

$$B_1^t C = C^t B_1. \quad \text{次に、} \quad A = \begin{pmatrix} b & x' & 0 \\ y' & A_2 & 0 \\ z' & B_2 & C \end{pmatrix} \quad \text{とすると、} \quad A \in G_\xi \quad \text{で}$$

$$\text{あることより、} \quad AY^t A = Y \Leftrightarrow -x' C = 0, \quad -A_2^t C = -I_m, \quad C^t B_2 - B_2^t C = 0 \Leftrightarrow x' = 0, \quad A_2 = {}^t C^{-1}, \quad B_2^t C = C^t B_2.$$

よらに、 $A = \left( \begin{array}{ccc|c} \dots & a_{ij} & \dots & 0 \\ \hline & B & & C \end{array} \right)$  とすると、 $y=0$ ,  $x'=0$  より、 $a_{12} =$

$a_{13} = \dots = a_{1, m+1} = 0$ ,  $a_{m+1, 2} = \dots = a_{m+1, m+1} = 0$ . したがって、 $A_1$  及び  $A_2$  はそれぞれ次のようになる。

$$A_1 = \begin{pmatrix} a_{11} & 0 & \dots & 0 \\ a_{21} & \dots & a_{2m} & \\ \dots & & & \\ a_{m1} & \dots & a_{mm} & \end{pmatrix}, \quad A_2 = \begin{pmatrix} a_{22} & \dots & a_{2, m+1} \\ \dots & & \\ \dots & & \\ 0 & \dots & 0 & a_{m+1, m+1} \end{pmatrix}$$

とすると、 $A_1 = A_2 (= {}^t C^{-1})$  であるから、 $a_{11} = a_{22} = \dots = a_{m+1, m+1} (= \alpha)$ 、 $a_{ij} = 0$  ( $i \neq j$ ) である。すなわち、 $A = \left( \begin{array}{ccc|c} \alpha & & & 0 \\ & \ddots & & \\ & & \alpha & \\ \hline & B & & \alpha^{-1} \dots \alpha^{-1} \end{array} \right)$ 。

よらに、 $A \in SL_{2m+1}$  であるから、 $1 = \det A = \alpha^{m+1} \cdot (\alpha^{-1})^m = \alpha$ . よらに、 $B_1 {}^t C = C {}^t B_1$ ,  $B_2 {}^t C = C {}^t B_2$  より、 $B_1 = {}^t B_1$ ,  $B_2 = {}^t B_2$ . したがって、 $B = \begin{pmatrix} a_{11} & a_{12} & \dots & a_{1m} \\ a_{21} & a_{22} & \dots & a_{2m} \\ \dots & \dots & \dots & \dots \\ a_{m1} & \dots & \dots & a_{2m} \end{pmatrix}$ . 以上により、 $G_{\mathbb{Z}} \simeq G_a^{2m}$  が示す

べい。よらに、Corollary 6. より、 $H^1(k, SL_{2m+1}) = \{1\}$ . また、Serre lemma 1. により  $\ker \rho = \{1\}$ . したがって、Proposition 9. 1. により、 $G(k) \curvearrowright Y^{(k)} = H^1(k, G_{\mathbb{Z}}) = H^1(k, G_a^{2m}) = \{1\}$ . よら、 $(SL_{2m+1}, \Lambda_2 \oplus \Lambda_2)$  に対して  $l=1$  がいえる。すなわち、 $(GL_1^2 \times SL_{2m+1}, \Lambda_2 \oplus \Lambda_2)$  に対して  $l=1$  である。

例 2.

$$(GL_1^2 \times SL_5 \times SL_2, \Lambda_2 \oplus \Lambda_1 + (\Lambda_1^* + \Lambda_1^*) \otimes 1)$$

$(GL_1 \times GL_5 \times GL_2, 1 \otimes \Lambda_2 \otimes \Lambda_1 + 1 \otimes \Lambda_1^* \otimes 1 + \Lambda_1 \otimes \Lambda_1^* \otimes 1)$  の ge-

neric isotropy subgroup が  $\{1\}$  であることが示される。Proposition 10. により  $\ell=1$  であることが示される。まず、表現空間  $V$  は、 $V = \{ (X, Y, Z) ; X, Y \in M_5, {}^tX = -X, {}^tY = -Y, Z \in M_{5,2} \}$  で与えられる。次に作用は、 $\rho(g)x = \{ (AX {}^tA, AY {}^tA) {}^tB, {}^tA^{-1}Z({}^1\alpha) \}$  for  $g = (\alpha, A, B) \in GL_1 \times GL_5 \times GL_2, x = \{ (X, Y, Z) \in V$  で与えられる。よって、generic point  $x_0$  は、次で与えられる。

$$x_0 = \left\{ \left( \begin{array}{ccc|c} & & & I_2 \\ \hline & & & \\ \hline & & & \\ \hline -I_2 & & & -1 \end{array} \right), \left( \begin{array}{ccc|c} & & & -I_2 \\ \hline & & & \\ \hline & & & \\ \hline I_2 & & & -1 \end{array} \right), \begin{pmatrix} 0 \\ I_2 \end{pmatrix} \right\}$$

$(\alpha, A, B) \in \tilde{G}_5$  とすると、まず  ${}^tA^{-1}Z_0({}^1\alpha) = Z_0, Z_0 = \begin{pmatrix} 0 \\ I_2 \end{pmatrix}$  であるから、 $A = \begin{pmatrix} A_1 & A_2 \\ \hline 0 & I_\alpha \end{pmatrix}$  の形である。

$$=: z, \quad A = \begin{pmatrix} a_{11} & a_{12} & a_{13} & a_{14} & a_{15} \\ a_{21} & a_{22} & a_{23} & a_{24} & a_{25} \\ a_{31} & a_{32} & a_{33} & a_{34} & a_{35} \\ \hline 0 & & & 1 & \alpha \end{pmatrix}, \quad B = \begin{pmatrix} b_{11} & b_{12} \\ b_{21} & b_{22} \end{pmatrix} \quad \text{とすると}$$

$$(AX_0 {}^tA, AY_0 {}^tA) {}^tB = (X_0, Y_0), \quad X_0 = \begin{pmatrix} & & & I_2 \\ \hline & & & \\ \hline & & & \\ \hline -I_2 & & & -1 \end{pmatrix}, \quad Y_0 = \begin{pmatrix} & & & -I_2 \\ \hline & & & \\ \hline & & & \\ \hline I_2 & & & -1 \end{pmatrix}$$

より、(1,4) (1,5) (2,4) (2,5) (3,4) (3,5) (4,5) -成分を比較して、次の方程式を得る。 $b_{12} = \alpha^{-1} - b_{11}, b_{21} = \alpha^{-1} - b_{22}, a_{12} = C - a_{11}, a_{13} = a_{11} - C, a_{14} = C - a_{11}, a_{15} = \alpha b_{22} C - a_{11}, a_{21} = C - a_{22}, a_{23} = C\alpha^{-1} - a_{22}, a_{24} = a_{22} - b_{22}C, a_{25} = a_{22} - \alpha b_{11}C,$

$a_{31} = a_{33} - c\alpha^{-1}$ ,  $a_{32} = c\alpha^{-1} - a_{33}$ ,  $a_{34} = b_{11}c - a_{33}$ ,  $a_{35} =$   
 $c\alpha^{-1} - a_{33}$ . 但し,  $c(b_{11} + b_{22} - \alpha^{-1}) = 1$  である。次に, (1,  
 2) (1,3) (2,3)-成分を比較して, 次の結果を得る。  $a_{11} = a_{22} =$   
 $a_{33} = b_{11} = b_{22} = c = \alpha = 1$ . よって,  $Z$ ,  $A = I_3$ ,  $B = I_2$ ,  $\alpha = 1$ . すなわ  
 ち,  $\tilde{G}_5 = \{1\}$ .  $L$  は  $\mathbb{R}$ ,  $Z$ ,  $(GL_1^2 \times SL_5 \times SL_2, \Lambda_2 \otimes 1 + (\Lambda_1^* + \Lambda_1^*) \otimes 1)$  に対して  $l = 1$  である。

### 参考文献

- [1]. J. Igusa ; On functional equation of complex powers.  
 Invent math 85 (1986), 1-29
- [2]. J. Igusa ; On a certain class of prehomogeneous  
 vector spaces. to appear in Journal of Algebra
- [3]. T. Kimura, S. Kasai, and H. Hosokawa ; Universal  
 transitivity of simple and 2-simple prehomogeneous  
 vector spaces. preprint (1986)